

平成24年2月20日

山形県県土整備部長 殿

馬見ヶ崎川流域（大門川・野呂川）の治水対策懇談会

座長 阿子島 功



馬見ヶ崎川流域（大門川・野呂川）の治水対策懇談会の意見について

このことについて、別紙のとおり、報告します。

(別 紙)

## 馬見ヶ崎川流域（大門川・野呂川）の治水対策懇談会意見

大門川上流の山形市休石地区については、これまでたびたび洪水による被害を受け、近年では平成 19 年 9 月の台風 9 号により甚大な被害を受けており、治水対策が緊急の課題である。

また、野呂川の国道 13 号上流については、平成 14 年 7 月の台風 6 号により浸水被害を受けており、また、現在山形市が進めている雨水排水用下水施設の受け皿としても治水対策が急務となっている。

これらの状況を踏まえ、本懇談会では、治水目標の設定や治水対策手法、周辺環境への影響について、これまで 3 回の懇談会を開催し、様々な議論を重ねてきた。

その結果として、馬見ヶ崎川流域（大門川・野呂川）治水対策懇談会として次の 3 項目に意見をとりまとめた。

### (1) 治水の目標

延伸区間の治水目標を、近年の主要洪水に対する流下能力や、上下流のバランスを考慮し、

#### ①大門川

休石橋より上流の計画流量を  $36\text{m}^3/\text{s}$  とすることは妥当と判断する。

#### ②野呂川

国道 13 号より上流の計画流量を  $130\text{m}^3/\text{s}$ （右支川合流点より上流の計画流量を  $95\text{m}^3/\text{s}$ ）とすることは妥当と判断する。

### (2) 治水の手法

#### ①大門川

治水機能の確実性や経済性等の観点から、現川改修(河道拡幅)案が妥当と判断する。

#### ②野呂川

現川改修(河道拡幅)案を基本とし、維持管理や経済性等の観点から、法勾配は 5 分案が妥当と判断する。

### (3) 周辺環境への配慮

#### ①大門川

大門川は、両岸に家屋や道路が隣接し、生活に密着した河川であることから、周辺環境に配慮すること。

#### ②野呂川

野呂川は、将来、周辺の都市化が進展する可能性があることから、安全性に配慮し、一部緩勾配護岸や残地等の有効利用を検討すること。